



愛川ふれあいの村5月の風景

平成30年5月 自然のたより

初夏の陽気に誘われて、鳥や虫たちも多くなってきました。緑もますます濃くなり、自然の生命力に感動します。キセキレイが子育てにいそむ姿は毎年炊事場周辺で見ることができますが、雛たちの巣立ちの時がもうじき訪れようとしています。雛たちは村内を自由に飛び回り、私たちを楽しませてくれるでしょう。



ホオノキとトチノキ



ジャノメチョウ3種



黄色い鳥



エゴツルクビオトシブミ



キジ



セリバヒエンソウ



サイハイラン



ヒメマダラセリとイモヅクセリ



ルリタテハ



ツマグロヒョウモン



ルリヅグミとヤマトヅグミ



カメノコテントウ



ミヤコワスレ



コアカミゴケ



ハサミツノカメムシ

◆そっと咲くサルナシの花(マタタビ科)◆

雨上がりの森からさわやかな風が吹き、遠くからキビタキのさえずりが聞こえ、清々しい気持ちになります。木々に絡みついていたフジやツツラフジは、刈り取られてしまい、今は見る事ができません。

山地の林縁にいくと、そこは急斜面になっていてミズキの枝先にサルナシやスイカズラなどのつる性の植物の花が一斉に咲き、甘い香りが漂っていました。

サルナシはつる性の落葉樹。葉は緑色で互生し5センチ〜12センチほどの大きさ。円い感じの楕円形で葉の基部はくびれ先端はとがり、ハート形をしています。葉柄が赤いのが特徴で、その脇に5枚の白い花弁を付け、非常に美しいものです。花は黒い葯が目立つのが雄花で両性花や雌花があります。雌雄異株または雌雄混株。

清楚な花を見ていると、どこからともなくコアオハナムグリが飛んできて枝に止まりました。赤い葉柄を伝わり花にたどり着きます。一つの花の花粉や蜜を吸うと飛び立たずに歩きながら次の花へと向かいました。このように花は虫に花粉を提供し、虫は花の受粉に役立っていたのです。熟した果実はとても柔らかくキウイに似た甘酸っぱい味でサルが良く食べることからサルナシと言われており、秋に実るのが今から楽しみです。(吉田)

↓サルナシの花に集まるコアオハナムグリ



★群青の尾を持つトカゲ★

尻尾が青イトカゲを見たことはありませんか。私は子どものころに、尻尾が群青色のトカゲを見つけて、その美しい輝きに感動したことをよく覚えています。

暖かくなり、村にトカゲが姿を見せ始めました。尾が青イトカゲの正体は、ニホントカゲの幼体です。金属質の光沢と愛嬌のある顔立ちで、ペットとして密かな人気を誇るニホントカゲ。彼らは体を暖めるため、日向を好みます。

石垣やコンクリートの上で日向ぼっこをする彼らを見てみると、なんだか心まで暖かくなるような気がしますね。(大谷)



★サルトリイバラの柏餅★

5月のお菓子といえば柏餅が思い浮かびますが、西日本では柏の葉ではなく、主にサルトリイバラの葉が使われます。私の故郷(広島県因島)でも、サルトリイバラの葉を使うのが一般的で、ギザギザの柏の葉に包まれた“ほんものの柏餅”を見たのは大人になってからでした。

サルトリイバラの葉は丸く、表面がツルツルで、団子を包むにはぴったり。柔らかな若葉よりは、少し硬くなった濃い緑の葉を使ったほうが、上手にはがせます。蒸しあがると、さわやかな香りが団子に移って、いくらでも食べられそうです。ぜひ、さがしてみてください。(金山)



◎六月の注目ポイント◎

五月にもなると木々は葉を茂らせて、姿は見えないがウグイスやホトトギスのさわやかなさえずりが村内に響き渡ります。鳥たちの声が響く山野草園は、今トチノキやメタセコイアの茂りで陰り、涼しく感じます。

その山野草園には六月になると『オカトラノオ』の花が咲きます。トラノオというと獰猛なイメージですが、この花は可憐です。近くで見ると花のひとつひとつが可愛らしく、少し離れて見ればトラノオの尻尾のように立派です。オカトラノオは日当たりのいい野山に咲きますが、わざわざ野山に出かけなくても、愛川ふれあいの村に来れば、木漏れ日の下で涼しくオカトラノオを見ることが出来ます。村にお越しの際は是非、山野草園をご覧ください。(石川)



→五月下旬の様子

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・石川雄馬・大谷遼

編集：吉田文雄・石川雄馬・大谷遼

愛川ふれあいの村で、検索★